



Noguchi Times

NOGUCHI INTERNATIONAL BUSINESS CONFERENCE NEWS Vol. 17 2017.1.17



トーマス・ジェファソン大学並びにミシガン大学からのゲストを囲んで

CONTENTS

■新年のご挨拶		p2
■野口医学研究所ゆかりの地をご紹介します『All About Philadelphia』		p3
■医学交流セミナー開催報告		p4
■米国医学研修生選考会実施報告		p5
■トーマス・ジェファソン大学客員教授任命式の実施		p6
■第27回NIBC開催内容報告、アベ・腫瘍内科・クリニックのご案内		p7

新年に寄せて

“安心”と“安全”

“安心”と“安全”…、これが今、私の考える医療の真髄である。
「野口」の目指した処は、General Doctorの育成であった…。それが我が友、トーマス・ジェファースン大学/チャールス・ポール教授から感化を受け、彼の主宰する、次なる世代に要求される真の医師像の追求とその教育プログラムの完成…、即ち“Humanity & Empathy in Medicine”を理解し、実践出来る医師の育成へと取って代わったのである。この標語に現されるempathy（共感）こそ、compassion（思い遣り）やhumanity（人間味）に富む“人間”医師の事で、その育成と実践プログラムの作成が現代「野口」の明日（近未来）への目標となったのだ…。



“安心”とは、心が安らぐこと。“安全”とは、全（まった）き“安心”のこと。正にEmpathy in MedicineのBase（根幹）となるものなのである。患者へ安心（感）を与え、安全な医療を施す…、言うのは易しいが、果たしてどれ程の医師が患者にとって“安心”で“安全”な医療を実践出来ているのだろうか…?!特別な“安心”と“安全”を患者へ届けられる普通の医師たちが、今、求められている…。心ある能力、人間味に満ちた技術が培われるべきなのである。

2017年は予想だにしなかったトランプ政権がスタートする。私はトランプを支持するのは無論のこと、大いに期待もしている。彼は医療保険制度も変えるであろう…。何れの国でも最終的には患者の付託に耐えられる医療保険のBoundary（臨界点）は、医療を実践する者の“心”のCapacity（包容力）とFlexibility（柔軟性）となるに違いない。これを確信している。

米国財団法人野口医学研究所 創立者・名誉理事
一般社団法人野口医学研究所 社員総代・代表理事

浅野 嘉久



All About Philadelphia

野口医学研究所ゆかりの地をご紹介します

米国財団法人野口医学研究所が本部を置くペンシルバニア州フィラデルフィア市は、独立宣言が為された合衆国誕生の地として有名です。

野口医学研究所と深い関わりのあるフィラデルフィアについて、連載でご紹介していきます。

ボートハウス

フィラデルフィア美術館の西側を流れるスキルキル川はボートの練習や競技会場として有名で、普段から地元のボートチームが練習している風景を目にすることができます。川沿いには19世紀に建てられたボートハウス群が並んでおり、チーム毎に異なる色合いで可愛らしく佇んでいるのが特徴的です。

夜になると全ての小屋がライトアップされ、1年を通じてクリスマスのような景色を楽しむことができるお薦めのスポットです。



レディング・ターミナル・マーケット

かつては駅として使用されていたスペースを再利用し、地元民もこよなく愛する屋内市場として親しまれているのがレディング・ターミナル・マーケットです。農場直送の新鮮な野菜や職人手作りのチーズ、肉、魚介、雑貨等を取扱う店舗や食事を提供する店舗など、100軒以上が所狭しと連なっており、見学するだけでも時間が経つのを忘れてしまうような面白さがあります。

アーミッシュ（文明の利器を使わず自給自足の生活を貫く民族）が出店する店舗で独特の文化や郷土料理を味わうのも楽しみの一つです。



医学交流セミナー開催報告

2016年12月3日（土） 於：日本歯科大学 生命歯学部キャンパス

2016年12月3日（土）、日本歯科大学に於いて『Humanity & Empathy in Medicine』をテーマとする第21回医学交流セミナーを開催しました。トーマス・ジェファーソン大学Dr. Mohammadreza Hojatによる基調講演や、その他日米医療に精通する医師によるLecture、患者にとっての悪い知らせをどのように伝えるか等の実例、アメリカで活躍する為の準備、女性医師のキャリアプランニング等について学ぶスモールグループセッションで構成され、医師、歯科医師、医学生、看護師ら計53名の参加者と共に活発なディスカッションが繰り広げられました。

講師陣

【医科】 Charles A. Pohl、James Hideyo Araki-Chow、Joseph S. Gonnella、Michael D. Feters、Mohammadreza Hojat、Wayne Bond Lau、Sandra Y. Moody、佐藤 隆美、佐野 潔、堤 美代子、津田 武

【歯科】 笠原 毅弘、羽村 章 【ゲスト】 加我 君孝



講師陣を囲んでの集合写真

スモールグループセッション



小児科に於ける症例研究について→

医療の場に於けるEmpathyの本質について、小児科領域での具体的な例を取り上げながら、活発な議論が展開されました。

←女性医師としてのキャリアプランニングについて

専門科の選択、留学、結婚、出産等女性医師としてのキャリア形成と働き方について実体験に基づいたアドバイスがありました。



セミナーの取材記事

セミナー当日は日本医事新報社様に依る取材が入り、12月13日付のweb版医事新報にて『医師・患者間の共感が治療結果に影響【M・ホジャット氏】』と題した記事が公開されました。

医師・患者間の共感が治療結果に影響 【M・ホジャット氏】

登録日：2016-12-13 最終更新日：2016-12-13

コーナー： [ニュース記事](#)

診療科： [内科](#) > [代謝内分泌・糖尿病](#)

[ブックマーク](#) [いいね!](#) [ツイート](#) [G+1](#) 0

「医師による共感が、糖尿病患者のヘモグロビンA1cやLDLコレステロールの値に影響する」。米国トーマスジェファソン大学のM・ホジャット氏が3日、医師・患者間の共感や心の交流を巡る野口医学研究所主催のセミナーで講演し、米国などの研究結果を紹介した。

ホジャット氏らの研究グループは、「ジェファソン共感尺度（Jefferson Scale of Physician Empathy）」のスコアで医師29人の共感を高、中、低に分け、医師らが診察していた糖尿病患者891人について、HbA1cやLDLコレステロールの値を比較。共感が低い医師でHbA1cの値が7%未満の患者は40%だったのに対し、共感が高い医師では56%だった。またLDLコレステロールの値が100未満の患者は、共感が低い医師で44%、高い医師では59%だった。

ホジャット氏はまた、医師242人、糖尿病患者2万961人を対象としたイタリアの研究も紹介。糖尿病性ケトアシドーシスや高浸透圧高血糖症候群、昏睡等の急性代謝性合併症の発生率は、共感が低い医師で患者1000人中6.5人、高い医師で4人だったとした。

セミナーでは佐野潔氏（地域家庭医療総合センター）も講演し、「医療の価値観を延命や経済効率、利益性等に集約させてしまうと、医療の本質を見失う」と指摘。満足度や快適性、幸福度といった人間主体の要素を取り入れることが必須だと強調した。



米国医学研修生選考会実施報告

2016年12月4日（日）

於：日本歯科大学附属病院

2016年12月4日（日）、日本歯科大学附属病院に於いて、米国医学研修生並びに米国医学生ワークショップ参加者の選考会が行われました。選考会終了後には、研修を修了した医師・医学生からの研修報告や、トーマス・ジェファソン大学のDr. Wayne Bond Lauによる特別講演『Preparing for Your Residency Interview: Tip for Success』が行われ、皆熱心に耳を傾けていました。



個人面接

志望理由や留学先で学びたいこと等、日本語と英語によるインタビューが行われました。

グループディスカッション

具体的な症例を通して、活発な意見交換が行われました。

← Dr. Wayne Bond Lauによる特別講演

米国で研修医のapplyをする際に面接の心構えとして重要なポイントを教えて頂きました。

トーマス・ジェファソン大学 客員教授任命式の実施

2016年12月19日（月） 於：The Union League of Philadelphia

医療法人津樹会の理事長で米財「野口」の倫理審査委員を務める松岡徳浩先生が、トーマス・ジェファソン大学（TJU）の客員教授に招聘され、2016年12月19日、『The Union League』（1862年に全米で初めてのメンズクラブとして創設された由緒ある会員制の建物）に於いて任命式が執り行われました。



中央 松岡 徳浩先生：医療法人津樹会 理事長
左から James B. Erdmann, PhD：TJU元副学長
Joseph S. Gonnella, MD：TJU元副学長、名誉医学部長
Mark L. Tykocinski, MD：TJU副学長 & 医学校校長
Charles A. Pohl, MD：TJU医学校副校長 & 医学部長代理

松岡先生の名前が
刻まれた銘板



The Union Leagueの外観



謝辞

この度トーマス・ジェファソン大学（TJU）から客員教授に招聘して頂いたことは、私にとって身に余る光栄と存じます。当日は、TJU副学長 & 医学校校長Mark L. Tykocinski教授及び同大学医学校副校長 & 医学部長代理Charles A. Pohl教授、元副学長名誉医学部長Joseph S. Gonnella教授、前副学長James B. Erdmann教授、神経内科Carol F. Lippa教授など重鎮の列席のもと格式あるUnion League of Philadelphiaで任命式並びに授与式が執り行われました。

その方々から、医学教育と歴史についてのお話を伺うことが出来、又当方も就任のスピーチを行い、TJUや米国財団法人野口医学研究所創立者・名誉理事である浅野嘉久博士への恩師としての謝意を表し、今後、日本に於ける医学教育の発展に貢献できるように抱負を語りました。

又、その後共同して研究するテーマをディスカッションすることができ大変有意義な時間となりました。小職が、何のつてもなく1人でハーバード大学に留学した時とは、タイムスリップしたような感覚に捕らわれましたが、アメリカの医療は素晴らしい発展を遂げ、日本の保険制度では真似できないような充実した現状を目の当たりにしました。

このような機会を頂き心より感謝するとともに、今後は、前向きに医療および研究の橋渡しが出来るように努めて参ります。



医療法人津樹会 理事長 松岡 徳浩

第27回NIBC開催内容報告

(NIBC : Noguchi International Business Conference)

2016年11月22日(火) 於：野口医学研究所 9階会議室

『がんでは死なない、 死なせない② (3回シリーズ) 』

プレジジョン・メディスンは、各個人にとって最も適した医療、つまり『個別化医療』と訳すことができます。

『個別化医療』は、「ゲノム」や「バイオマーカー」等の患者さん固有の情報と、がんの大きさや部位、性別や年齢、体格、ライフスタイル、地域性や家族の状況、経済状況等も加味した上で、それぞれの患者さんに最も相応しい治療をしようという考え方です。

例えば、肺がんの患者さんが薬剤で治療する場合、どのような抗がん剤が最も効果があり副作用がないか、遺伝子解析によって分析することができます。万一、合う薬が無い場合でも、個別化医療を基にした免疫療法により、患者さんにマッチしたワクチンを作成することが可能であり、一般的な抗がん剤よりも有効率が高いという結果も出ています。

がん治療に関しては、外科療法、放射線療法、粒子線療法、オンコハイパーサーミア等様々な方法がありますが、プレジジョン・メディスンという概念を基にしてこれからも進歩し続けていくでしょう。

当クリニックはこのプレジジョン・メディスンを積極的に取り入れています。いつでもご相談下さい。



医療法人社団博心厚生会 アベ・腫瘍内科クリニック
理事長

阿部 博幸

— 野口医学研究所の提携クリニック —



アベ・腫瘍内科・クリニック

ABE CANCER CLINIC



**米国財団法人野口医学研究所評議員の阿部博幸先生
が理事長を務めるがん治療専門のクリニックです。**

アベ・腫瘍内科・クリニックは、免疫細胞療法を中心としたコア治療でがんの根治を目指しています。又、あらゆる意味において患者様の負担が軽減され、癌治療の効果がより高くなるよう、がん治療の臨床・研究に取り組んでいます。

ご相談は「野口医学研究所」まで



Facebook&アメーバブログ

 いいね! & コメントお待ちしております!

NIBC公式Facebook

浅野嘉久公式サイト



浅野嘉久

検索

NOGUCHI TIMES

Noguchi International Business Conference News Vol. 17

発行日 2017年1月17日

発行人 浅野 嘉久

編集 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-22-13

代表電話 03-3501-0130

一般社団法人野口医学研究所

<http://www.noguchi-net.com>